

ドイツの産業・環境問題学習に地図を活用しよう

日本女子大学附属中学校・非常勤講師 深瀬 浩三

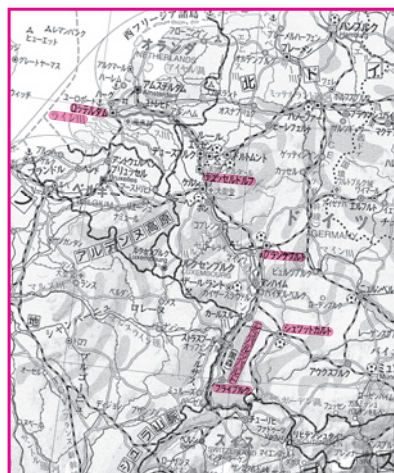
国家間の結びつきの中心にいるドイツについて、地図を利用して、ライン川沿岸の産業の発展や環境問題を考えよう。

ライン川流域の都市・産業の分布 地図帳p.38でライン川流域に着目してみよう。国際河川のライン川は複数の国をまたがって流れている。スイスのアルプスを源流とする「父なる川」ライン川の沿岸には多くの商業・港湾都市が分布している。

その基礎を築いたのはライン川沿いのルール、ザール地方、フランスのロレーヌのなどで産出する石炭であった。鉄鉱石などの原材料の輸入運搬、製品の輸出運搬に、オランダのロッテルダムにあるユーロポート（ヨーロッパの海の玄関口）が好適であった。なかでも、デュッセルドルフは、ルール工業地帯の中核となる都市であり、さまざまな企業の本社がおかれ、日本企業も多くこの都市に進出している。河川沿岸のフランクフルトには、チバ・ガイギーやヘキストなど世界的に有名な製薬会社が立地。また、ドイツ北部に位置するボルフスブルクはフォルクスワーゲン、ドイツ南部に位置するシュツットガルトはベンツやボルシェ、ミュンヘンはBMWの会社・工場も河川沿岸に立地している。

製造のために必要な大量の水が得られること、原料運搬に便利であることから、国際河川であるライン川の水運が産業発展の要因となった。

ライン川的环境問題 しかし、流域の都市人口の増加や産業の発達とともに、排水が流れ込むライン川の水質汚濁は深刻化した。



「中学校社会科地図 初訂版」p.38

ライン川で、川の汚れがひどいのはどこなのか、地図で確認させてみよう。工業地帯の周辺に位置するシュバルツバルトでは、酸性雨の影響で立ち枯れた木がめだつようになった。ドイツをはじめ、ヨーロッパの国々が環境について影響し合っていることを地図帳p.44 **A** **C** から読み取らせよう。

さまざまなレベルでの環境問題への取り組み
近年では、ドイツをはじめとする流域の国々で環境改善の取り組みがなされている。ライン川全体に水質汚濁が改善していること、とくにフランクフルトやロッテルダムなどに注目させてみよう。また、シュバルツバルトの南、ライン川沿岸に位置するフライブルクでは、1960年代から公共交通整備・太陽光発電、ごみ問題など環境保全に取り組んでおり、環境首都として近年有名になっている。このように、一本の川を中心として、さまざまなレベルの問題に対して協力して取り組まれていること理解させよう。